

水稻の作柄に関する委員会（平成23年産第1回）議事要旨

1 開催日時：平成23年9月5日（月） 13:30～15:26

2 開催場所：農林水産省大臣官房統計部第1会議室

3 出席者：【委員】

染英昭座長、黒田栄喜委員、中園江委員、長谷川利拡委員
平澤正委員、前田修平委員、丸山幸夫委員、山岸順子委員

【事務局】

大臣官房統計部長、生産流通消費統計課長 他

4 議事

平成23年産水稻の8月15日現在における作柄概況及び次期調査（もみ数確定期）の実施に当たっての留意事項について

5 議事概要（○：委員からの発言）

事務局から平成23年産水稻の8月15日現在における作柄概況調査結果について説明後、各委員から意見・提言を受けた。

○ 本年は梅雨入りや梅雨明けがかなり早く、夏の平均気温は昨年ほどではないが全国的に高かった一方で、7月下旬、8月下旬等低い時期があり変動も大きかった。

○ 梅雨明けが早く、その後の気温が高めに推移したことから、移植後の低温の影響から回復しているとみられ、現時点では大きな減収要因は見当たらない。

○ 7月下旬の新潟・福島豪雨や台風の影響による豪雨等各地で大雨があり、冠水や倒伏等による作柄への影響が懸念される。

○ 夏場の気温が高く、特に関東以西では最低気温が25℃を上回る、あるいは最高気温が32～33℃以上の時期があり、出穂後約20日間、高温で推移した地域では登熟や品質への影響が懸念される。

○ 東北など8月初め頃に出穂した地域では、8月中旬のお盆過ぎまで高温傾向にあったが、その後低温傾向となったことから、登熟への高温の影響は昨年ほどないと想定される。

○ 斑点米カメムシ類や穂いもち病等の発生が一部地域で多いと予想されており、その被害の状況を注視する必要がある。

○ 7月下旬に最低気温が17度以下となった日が数日続いた北海道や東北においては、その影響を見極める必要がある。

上記意見を踏まえ、委員会としての意見をまとめ、その場で了承された。
(http://www.maff.go.jp/j/study/suito_sakugara/pdf/opinion_h230905.pdf)

(参考)

○ 会議及び議事録を非公開とする理由

今回開催した水稻の作柄に関する委員会については、当年産の水稻の作柄に関して、学識経験者等から専門的な見地から意見を聴くために開催している。その内容は、個人・地域における水稻の品質、収量等に関する事項等、特定の個人若しくは団体に不当な利益若しくは不利益をもたらす恐れがある事項が含まれること等から、会議及び議事録を非公開としている。